

TOSAギャラリー



The Ordinary Unseen #20(Queensboro Plaza Station)

# となりの ニューヨーク

木戸孝子

私の住むクイーンズは、移民が増え続け、現在百三十八種類の違った言語が話されているところです。街を歩いても電車に乗っても、いろんな国の言葉が聞こえて来ます。私はアストリアという地区に住んでいます。

ド人街、自分が中国にいると感じえない、中国人だらけの中国人街などがあります。

「ここはギリシャの人々がたくさん暮らしています。安くておいしいギリシャレストランもいっぱいあって、とびきりおいしい焼きタコが食べられます。その他、人々がたむろして水パイプたばこを吸ってくつろいでいるエジプト人街、安くておいしいカレーが食べられるインド人街、自分が中国にいると感じえない、中国人だらけの中国人街などがあります。うちから電車で十分ほどのブロードウェイ駅には、最近日本人街ができてつとあると言われるほど、日本人がたくさん住んでいます。日本のコンビニのような店もあるので、私はニューヨークにいながらにして、ちくわをおやつに食べながら家に帰ったりしています。とにかく、今やクイーンズは、バスポートのいらない世界旅行ができてしまう場所なのです。そのブロードウェイ駅の近

## ちよつとそこまで世界一周

に友達の家が住んでいます。彼は一九七〇年、四歳の時に、両親、兄、祖父母と共にキューバから移民しました。

彼のお父さんは電気技師、お母さんは先生だったのですが、政府に職を取り上げられ、お父さんはキューバの政治体制に危機感を抱き、まだホセが生まれる前にアメリカへの移民を申し込めました。それから書類がそろそろのを待つのに五年かかりました。

その間、お父さんは強制収容所に入れられ、釈放され、また入れられ釈放され、を延々繰り返しました。精神的ダメージを与えるためにそうされたそうです。お母さんはホセがおなかにいたので、収容所に入れられずじまいました。お父さんは家族を養うために、靴を作ってはまた収容所に連れて行かれ、戻

てきてはまた靴を作りました。自分のためにお金を稼ぐ事は違法なので秘密で靴を作っていたのですが、そのために警察から命を狙われました。そまよつと五年間じつと耐え忍び、やっと移民できたのです。

四歳からニューヨークのブルックリンで育ったホセは、アメリカが自分の国と言います。十五年ほど前のまだニューヨークがとても危険だったころ、クラブの警備員やボディガードの仕事をしたが、ボディガードのチャンピオンになりました。その後カリフォルニアの大学に行き、現在はカイロプラクターとして患者さんを診る毎日です。

「いろんな国の人がいって、朝は近所の人たちとおはようとおいさし合、クイーンズが好きなんだ。いろんな国の珍しい物も食べられるしね」と、体重約百ポンドの彼は言います。ちなみに酔っ払いの大ファンです。

アメリカに移民してきた人た

ちの多くは、現代の日本人には信じられないような経験をしています。しかもそれは今の時代に起きていることなのです。日本になかでも生まれ育った私はなんて幸運だったのでしょうか。ホセの話であらためて聞いた後、私は「99セントショップ」で買った小さな地球儀を取り出し、世界平和を祈らずにはいられません。



きど たかこ 1970年、中村市(現四万十市)生まれ。フリーランスフォトグラファーとして、ムック本や雑誌、ウェブなどの仕事を経て、2002年渡米。ニューヨークのインターナショナル センター オブ フォトグラフィで学ぶ。ニューヨーク在住。

高知新聞(夕刊) 2007年6月14日

## となりのニューヨーク -ちょっとそこまで世界一周-

私の住むクイーンズは、移民が増え続け、現在百三十八種類の違った言語が話されているそうです。街を歩いている電車に乗っても、いろんな国の言葉が聞こえて来ます。私はアストリアという地区に住んでいますが、ここにはギリシャの人々がたくさん暮らしています。安くておいしいギリシャレストランもいっぱいあって、とびきり軟らかい焼きダコが食べられます。

その他、人々がたむろして水パイプを吸ってくつろいでいるエジプト人街、安くておいしいカレーが食べられるインド人街、自分が中国にいるとしか思えない、中国人だらけの中国人街などがあります。

うちから電車で十分ほどのブロードウェイ駅には、最近日本人街ができつつあると言われるほど、日本人がたくさん住んでいます。日本のコンビニのような店もあるので、私はニューヨークにいながらにして、ちくわをおやつに食べながら家に帰ったりしています。とにかく、今やクイーンズは、パスポートのいらぬ世界旅行ができてしまう場所なのです。

そのブロードウェイ駅の近くに友達のホゼが住んでいます。彼は一九七〇年、四歳の時に、両親、兄、祖父母と共にキューバから移民しました。

彼のお父さんは電気技師、お母さんは先生だったのですが、政府に職を取り上げられ、お父さんはキューバの政治体制に危機感を抱き、まだホゼが生まれる前にアメリカへの移民を申し込みました。それから書類がそろいのを待つのに五年かかりました。

その間、お父さんは強制収容所に入れられ、釈放され、また入れられ釈放され、を延々繰り返しました。精神的ダメージを与えるためにそうされたそうです。お母さんはホゼがおなかにいたので、収容所に入れられずにすみました。お父さんは家族を養うために、靴を作ってはまた収容所に連れて行かれ、戻ってきてはまた靴を作りました。自分のためにお金を稼ぐ事は違法なので秘密で靴を作っていたのですが、そのために警察から命を狙われました。そうやって五年間じっと耐え忍び、やっと移民できたのです。

四歳からニューヨークのブルックリンで育ったホゼは、アメリカが自分の国だと言います。十五年ほど前のまだニューヨークがとても危険だったころ、クラブの警備員やボディーガードの仕事をしなが、ボディービルのチャンピオンになりました。その後カイロプラクティックの大学に行き、現在はカイロプラクターとして患者さんを診る毎日です。

「いろんな国の人が出て、朝は近所の人たちとおはようあいさつし合うクイーンズが好きなんだ。いろんな国の珍しい物も食べられるしねー」と、体重約百キロの彼は言います。ちなみに酔鯨の大ファンです。

アメリカに移民してきた人たちの多くは、現代の日本人には信じられないような経験をしています。しかもそれは今この時に、世界のあらゆる場所で実際に起きていることなのです。日本のいなかで生まれ育った私はなんて幸運だったのでしょうか。

ホゼの話であらためて聞いた後、私は「99セントショップ」で買った小さな地球儀を取り出し、世界平和を祈らずにはいませんでした。